

発行

京都教育大学同窓会

発行責任者

会長 大越 房数

京都教育大学 同窓会だより



事務局

〒612-8522

京都市伏見区深草藤森町1

京都教育大学内

TEL 075-644-8353

FAX

メールアドレス dosokai@kyokyo-u.ac.jp



来年は大学創立一五〇周年

京都教育大学同窓会会長 大越 房数



昨年の総会におきましてご承認いただき、

会長を務めております。責任の重大さに身のすくむ思いですが、誠心誠意頑張ってまいりますので、よろしくお願い致します。

大学を卒業してから約半世紀が過ぎようとしていることに我ながら驚くばかりです。A棟、体育館、生協と、学生時代の主な生活の場所となった建物は、今も、そのままありますが、部室として使っていた木造の建物はさすがになくなりました。

大きく変わったのは、学生の定員が一学年三〇〇名と一〇〇人以上少なくなったことと、大学の近くにJR藤森駅ができたことです。学生時代にJR藤森駅があれば、寮生活を送ることもなかったのかと考えてしまいます。もう一つあげれば、樹木が大きく育っていることです。

しかし、学内で見る学生達は、気さくに挨拶をしてくれ、のびのびと学生生活を送っているように見え、僕たちの時代と何も変わっ

ていないようで、何となく嬉しくなっています。

さて、いよいよ来年は大学創立一五〇周年となります。同窓会では、今年の総会をステップとし、来年の大学創立一五〇周年の総会を記念すべきものとするための準備を進めているところです。学科・専攻の同期会、部活動のOB会などで、誘い合って多くの皆様方に参加していただくことで、記念すべき総会として考えていますので、ご協力をお願いします。総会の内容等につきましては、決定次第、ホームページなどでお知らせします。

今号の内容

- ① 会長挨拶
- ② 学び舎／大学の今
- ③ 紫郊体育会の活動
- ④ 創立記念特集
- ⑤ 創る
- ⑥ キャンパスライフ
- ⑦ 頑張ってます
- ⑧ アートフォーラムの活動
- ⑨ 本部だより
- ⑩ 行事・編集後記
- ⑪
- ⑫
- ⑬
- ⑭
- ⑮
- ⑯

学 び 舎

大学の今

学生プロジェクト♪どれみふあそび♪ 子どもためのアウトリーチの活動について

京都教育大学音楽科准教授 田邊 織恵



二〇一五年より音楽科の学生を中心に始めた学生支援プログラム、e-Project@kyokyoのどれみふあそび♪子どもたちのためのアウトリーチの活動について紹介したいと思います。

このプロジェクトは、音楽科の学生達の音楽スキルを生かして、普段、生の音楽に触れることの少ない子供たちに音楽を届けたいという思いから、京都市内を中心とした幼稚園や保育園、小、中学校、特別支援学校、児童館、児童養護施設、地元のお祭りなどでのイベントや出張演奏会、授業内での演奏を行っています。現場の人たちと話し合い、ニーズに合わせた企画構成、選曲を学生自らが考え実施しており、世代やメンバーは変わりながらもその趣旨を受け継ぎながら一〇年間活動を継続しています。

二〇一五年より音楽科の学生を中心に始めた学生支援プログラム、e-Project@kyokyoのどれみふあそび♪子どもたちのためのアウトリーチの活動について紹介したいと思います。

ンブルや声楽、合唱等が中心ですが、単なる音楽鑑賞会にならないように「楽器紹介」を入れ、楽器の仕組みや音楽の歴史等をクイズ形式で行い、教育現場で使用する楽器（木琴、鍵盤ハーモニカ、リコーダー等）を使用したり、参加型の「指揮者体験」や「合唱」等のプログラムも入れ、子供たちに楽しんでもらえるよう工夫しています。

私はこの活動の立ち上げの時から助言教員として携わり、共に内容を考えたり、練習に立ち会ったりしてきました。初めは全てが手探りで、依頼先とのやり取りやメンバー集め、曲目決定、練習、レパトリーの少なさ等も相まって、大変な面も多く一年に数回の活動で精一杯でした。しかし今では登録メンバーは五〇名を超え、各学年で運営委員を選出し、HPやチラシの作成、編曲やプログラミング、本番、練習予定などをインターネットで共有、Googleフォームで外部からの申し込みもできるようになり、今年度はなん

と二一件も大変多くの依頼公演を行うことができました。それぞれのニーズに比べると、この活動は非常に複雑なやり取りの多いマネージメントの分野でも、学生達が主体的に運営力を身につけた大きな成長の一步だと思っています。

e-Project@kyokyoの研究発表会ではこれらの成果に対し、二〇一六年度に審査員特別賞、二〇一八年度に優秀賞、二〇二二年度～二〇二四年度と四年連続で最優秀賞を受賞してきました。子供たちに生の演奏を聴かせてあげたい現場と、学生たちにとっては、演奏の場を得たり、授業や子供の「音楽との出会い」について考え、その反応を肌で感じられたりすることの活動は、お互いにメリットがあり、大変貴重な



活動で今後教員になっても活かす力になるのではないかと思います。

また学生たちも忙しい中ですが、それぞれの得意を活かし、楽しんで企画、練習、訪問を行っており、領域、学年を超えての交流の一端にもなっています。

今後も学生たちが持っている力を活かせるような機会が増えていくように願っています。

過去の活動については、大学のHP内、e-Project@kyokyo研究発表会の所で報告書を閲覧できます。また皆さんの関係する学校や現場などご興味がありましたら、どれみふあそび♪子どもたちのためのアウトリーチのホームページにもありますので、是非ご覧いただきお問い合わせください。



京都教育大学「学歌」

作詞 仁張 秀之助

作曲 中田 喜直

一 朝空は 金色に映え

山脈はるか 雲のかなた
学びの道が 険しかろうとも
嶺高く 登って行こう
手を取り肩くみ ひとすじに
久遠の光は 輝いている

二 夕空は 茜に染まり

梢ほのか 森のかなた
教えの道が 遠かろうとも
繁み深く 辿って行こう
手を取り肩くみ ひとすじに
希望の星は きらめいている

※ この学歌は、「京都教育大学」が「京都学芸大学」として発足してから一五周年にあたる一九六四年に「学歌」として制定されました。

同窓会員増に向けた取組にご協力を

同窓会では皆様のご協力をいただき、会員相互の親睦を図る取組や学生会員の方々への奨学金の支給など様々な支援活動にも積極的に取り組んでいます。次年度(令和8年度)は、京都教育大学創立150周年の年になり、より一層活動を活発化させていきたいと思えます。そのためには、会員数の増加が欠かせません。これまでも「ワン・ツー運動(一人の会員が未加入の二人以上の卒業生に声をかけ、会員を増やしていく運動)」や同窓生の方々が組織されている体育会、各学科同窓会等への会員増の働きかけを強化してきました。同窓会ではこれからも、横のつながり、縦のつながりを大切にしていきたいと思えますので、ぜひ会員増の取組にご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。同窓会の活動内容や入会届などについては、同窓会HPでご確認ください。



同窓会HP



事務局宛メール

大切にしていきたいこと



令和2年
教育学部社会領域専攻卒

井保 壮馬

卒業してから月日は流れ、あっという間に五年が経ちました。大学で過ごしていた時と時間の感じ方が大きく変わり、目まぐるしい日々を過ごしています。

そのような日々の中でも大切にしていることは「余裕を持つこと」です。心に余裕がないと、予想外の事態に焦り、できることもできなくなってしまうます。子どもたちは良い意味でも悪い意味でも予想を超えてきます。授業で予想以上に良い返答をしたり、休み時間に思わぬことで揉めたりすることは日常茶飯事です。そのような時にこちらも余裕がないと、良い発言であったとしても生かしきれなかったり、トラブルが起こった際には、子どもたちの思いを十分に汲み取れないまま叱ってしまったりします。準備をしておくことももちろん大切ですが、余白を持たせ、最後は子どもたちが選択し、決定していくものだと思つくりをしておくこともまた大切だと思います。

そしてそのためには、「自分の軸を定めること」が必要だと感じます。教師という職業は、働く人一人一人の個性が表れやすい職業。自分のスタイルを確立し、一貫した姿勢を持つことが子どもたちと関わる上で大切だと思います。

これからも「余裕を持つこと」に加えて「自分の軸を持つこと」を心がけていきたいです。周りの方達から学んだり、得意なことや好きなことを増やしていったりする中で、新しい知識やスキルを身につけ、より深みのある大人になれたらよいなと思っています。

(京都市立伏見板橋小学校 勤務)

理科を通じてわかることの楽しさを伝える



令和4年
教育学部理科領域専攻卒

米澤 彩乃

京都市立中学校に勤務して2年目になりました。昨年度は、教師1年目ながら中学校3年生の担任をさせていただき、生徒が巣立っていくすばらしさと、生徒のこれからの人生を意識した教育をたくさん学ばせていただきました。今年度は中学校1年生の担任として、3年後の卒業を見据えながら関わる難しさや、細やかな指導の大切さを日々感じています。受け持っている教科は理科で、この教科を通じて、「なぜ」「どうして」という物事に対する疑問を解き明かし、「わかること」の楽しさを伝えたいと考えています。しかし理科の授業で、ただ現象や事象の原理を説明しても、生徒はついてきてはくれません。生徒自らが疑問に感じ、自分で考えてみたいという力をどうつけていくのか、試行錯誤を続けています。理科の学習を通じて、理解することの楽しさを知り、学ぶことは「人生を豊かにする」と感じてもらえるよう、学校内外の自主研修に参加し、たくさんの先輩方と共に教材を多角的に捉えることで、自分の授業のブラッシュアップを続けていきたいです。

教師という仕事において、「現状維持」は「後退」であると感じています。生徒は私が想像しているよりも早いスピードで成長し、毎日たくさんのことを教えてくれます。生徒に負けないように自分もより良い授業や学級経営ができるよう、先輩方から学び、努力を続けたいと思います。

(京都市立東山泉小中学校 勤務)

※ 勤務校は令和7年3月現在

頑張っています

本部だより

第二五回写真展

第二回写真展スマホの部

令和六年十一月八日(金)から一月十一日(月)までの四日間、大学図書館リフレッシュラウンジ及び学生課との通路にて開催いたしました。

作品は出展者一八名から三四点の作品をお寄せいただきました。昨年度に比べますと、出展者数、出品数とも若干減少しましたが、スマホの部に関しては、出展者数一九名、出品数八五点と大幅に増加し、とりわけ現役学生同窓会員の出展により、活気あふれる写真展となりました。鑑賞者数は一七五名で、昨年度より若干増加しました。

最終日一日には、「勉強会(写真講座)」を開きました。今年度も大西功氏(日本風景写真協会会員)に講師をお願いしました。デジカメやスマホの特性が生かされた現代の写真撮影の仕方、撮影のタイミングの重要性、フレーミングの工夫などについて、一点一点に丁寧な指導をいただきました。さらに先生がご用意くださった配布資料によって、より具体的な勉強をすることができました。

スマホの部では、日常で気になったものを記録しておこうという気持ちでみなさんが撮影されていますが、面白いものに遭遇して、それを残したいという気持ち、それが写真の撮

影には一番大事だと思います。日常的にスマホで撮影することが、きつとより精度の高い写真作品につながっていくと思います、ということでした。

鑑賞者のアンケートには、きれいな写真、躍動感のある写真に感動した、技術の高さ、レベルに驚かされた、写真に乗せられた思いや趣きを感じられた、「スマホの部」について日常の一部が切り取られ面白かった、学生の出展があり良かった、スマホの部が学生には参加しやすいかも、友人の作品が見られて良かった、スマホもデジカメと遜色なく身近になっていると感じた、などの声をいただきました。

紙面では、出品者の中からお二人の方の作品を、大西先生の講評を加えてご紹介します。



「風の通り道」

平井 恭子

【大西先生評】 大学の構内ですね。ふだん日常に過ごしているところに、このような季節感のある場所を見つけられました。風の通り道というタイトルもおしゃれですね。



「ふくろう生まれる」

高群 哲夫

【大西先生評】 生まれたてのフクロウはこんなかと思わせ、また表情があるのが楽しい。倒木に乗ったフクロウと後ろの緑が周りの森も想像させてくれます。

本部だより

●いいとも講演会●

「子どもの生活と音楽」

幼児教育科教授 平井 恭子 先生



【講師紹介】岡山県倉敷市出身、岡山大学、同大学院修了。大学院在学中にハンガリー、ドイツ、オーストリアの音楽教育や幼児教育現場を視察、その後の人生に多大な影響を受ける。大学院修了後、倉敷市内公立幼稚園や岡山大学教育学部附属幼稚園で勤務、その後岡山県内の大学や短期大学で音楽や音楽表現を教える傍ら、ピアノ伴奏者として活動。二〇〇一年四月より幼児教育科講師として赴任、二〇一七年より教授。二〇一八年四月から二〇二二年三月まで附属幼稚園長を兼務、現在は環境教育実践センター長を兼務。専門研究分野は幼児音楽、うたや身体動きを使った音楽教育方法や乳幼児の音楽行動に見られるリズム感の獲得過程について研究。

◆音や音楽は乳幼児の子どもたちの成長発達に如何に関わっているか

胎児から乳児を対象とした研究を紹介された。胎児期の聴覚の発達や赤ちゃんがお母さんのお腹の中で聞いている音、新生児の「聞こえ」の調査など、非常に興味深いお話だった。

◆赤ちゃんはどんな音に注意を向けるか

世界中で子守歌が歌われるわけ、〇歳児前半の母子のコミュニケーション、赤ちゃんの養育者の間で成り立つ共感的同調的コミュニケーション、親しんだ音楽は社会的選好をもたらす、

あやし行動の音楽性と身体性など、音楽性や身体性について、乳児は強い感受性を働かせており、大人は無意識にそれらを育児行動に取り入れている。

◆幼稚園の生活の中でみられる表現

次に幼稚園で子どもたちとかわつておられたときに、観察された子どもの表現がいつどのように生まれるのかを話された。うたが生まれるとき、息を合わせる必要感から様々な掛け声が生まれる、同じリズムで動くことがもたらす影響がある、唱え言葉から抑揚にあるメロディーが生まれるなど、実際に撮影された動画や画像、採譜されたものなどを見

せていただいた。そして、人はなぜうたうのか、仲間意識との関連があるのか？という問題を提起され、うたうことはプリミティブな欲求であり、音楽性の芽生えとの関連があるということである。

◆参加者による音楽遊びの体験

後半は参加者に音楽遊びの体験をさせてくださり、お手玉を使った遊びを行った。全員で輪になって、四拍子の動きを続けるのにかなり苦労したが、人数を減らしたり、テンポを落したりして、徐々に息が合うようになった。最後は動作が一つ加わり、五拍子に挑戦。平井先生の即興のピアノ演奏で、『Take Five』に合わせた五拍子の動きが完成し、全員、達成感と喜びの大歓声で終わった。

◆アンケートより

都合で、講演会終了後の片づけを急いだため、少数の回収にとどまった。内容、開催時期、会場について良かったという感想が多かったが、中には、学生の参加ができる別の時期が良い、という意見もあった。来年度以降も参加者に興味を持っていただけの内容で実施していきたい。

囲碁大会

今年度は、藤陵祭開催期間に合わせて実施した。お世話役の江草文佐夫氏の発案で、『囲碁道場』というネーミングでポスターを作成していただき、学内に掲示した。近年参加者の減少が続いていたが、初めて小学生親子の参観があり、来年度以降への希望の兆しを感じられた。こういった入門者にも気軽に参加してもらえるイベントになっていくことを希望している。



令和7年度定期総会のご案内

＜午前10時20分から受付開始～午前11時開会＞

と き 令和7年7月13日(日)
 ところ ホテルオークラ京都
 4階「暁雲の間」 ☎ (075) 211-5111
 交通 地下鉄東西線「市役所前駅」下車
 地下鉄連絡通路からホテルへ
 会 費 10,000円 (受付でいただきます)
 内 容 10時20分～ 受 付
 11時00分 総会開会
 12時30分～15時30分 交 流 会

☆総会参加の申込方法

- ・申込用紙を使用する場合は、必要事項を記入の上、事務局へ郵送またはファックスにてお送りください。
- ・下のQRコードから申し込まれる場合は、申込シートを読み込んで必要事項を記入し、送信(事務局へ)してください。

TEL・FAX (075) 644-8353
 Eメール
 dosokai@kyokyo-u.ac.jp



※申込締切は令和7年6月28日(金)までに、個人または同期会、学科(専攻)、ゼミ、クラブ、職域等グループでお申し込みください。

11時開会です

本年度 支部長会・幹事会 令和7年6月14日(土) 午後1時30分より

第12回「いいとも講演会」

令和7年11月8日(土)

講師：京都教育大学英文科 児玉 一宏教授

第59回囲碁大会(囲碁道場)

令和7年11月8日(土)

場所：未定(大学内)

第26回写真展のご案内

開催日時：令和7年11月7日(金)～9日(日) 10時～16時(9日は13時まで)

京教大の学園祭(藤陵祭)の実施日に合わせて企画

開催場所：大学内(詳細は未定)

—— 作品募集要項 ——

- ①作品出品資格 京教大関係者・写友(一般写真愛好家)
- ②出品作品 一人2点以内(写題は自由) * 撮影年月日と天地が判るように裏に表示
四つ切り(ワイド版にしないこと)またはA4版、額は当方で用意します。
- ③申込と問い合わせ先
・出展の申込は、10月17日(金)までに、申込葉書をお願いします。
・申込葉書が必要な方は、上記同窓会事務局までご連絡ください。
- ④勉強会 令和7年11月9日(日) 講師：大西 功氏(日本風景写真協会会員)
- ⑤作品の送付及び返却
・送付日 10月31日(金)までに、同窓会事務局に持参、郵送、宅配をお願いします。
・作品を直接事務局へ持参の場合は、あらかじめ事務局へお電話をください。
・返却日 11月9日(日) 勉強会終了後お持ち帰りいただくか、後日宅配便にて返送します。



—— 第3回写真展スマホの部 ——

※作品は一人3点以内、出展者名、卒業年度が学科回生、各作品名をメールに明記し、画像データを添付して10月31日(金)までに事務局へ送付してください。

編集後記

個人的な話で恐縮ですが、私は共通一次試験を受けていない最後の世代です。高二の時「君らは浪人したら共通一次を受けなアカン、よく考えて、三年の履修科目を選べ」と先生に言われたことを今でも覚えています。数列だけに山をはった苦手な数学。教科書の注釈まで読んで、それが面白かった日本史。大学に辿り着くまでの思い出です。

さて、二〇二五年一月の大学入学共通テストから「情報」が実施されました。新聞で初めて見た「情報」の問題：日本語で書かれているのに分からない単語が多すぎて、途中から笑うしかありません。ニュースでインタビューに答えている受験生は「基本的な問題で安心しました。」と笑顔。これからの社会を生きていくにはこういう力が必要なんだな、と改めて感心した次第です。

「教員の働き方」ブラック」というイメージが定着してしまった現在、それでもなお京都教育大を選び、入試を突破して、熱い思いをもって教職を目指す若い世代に、同窓会の一員としてエールを送りたいと思います。

今号も、幅広い年代の皆さんにご協力いただきました。特に来年の一五〇周年に向けた企画として、先輩方から貴重なお話を伺うことができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

《編集委員》

走井 徳彦 山本 早苗
 中東 朋子 綿越 貴久
 谷 早苗 飯田 一輝